

# 未受診者の中には深刻な病状の方が・・・



## ○ 和泉先生からのメッセージ

健診を受けていない方に、深刻な病状の方がいることがわかりました。一人でも多くの方が、一年に一度健診を受診し、早期発見・早期治療につなげて、健康で豊かな生活を送られることを願っております。

生活習慣病の発症や重症化を予防するために、平成 20 年より特定健診（メタボ健診）がスタートしました。このたび、スタートしてからの 5 年間に一度も受診されていない方に家庭訪問を行いました。今回はその中から健診の大切さや皆さまの健康づくりに活かしていただきたい情報を、武庫川女子大学看護学部・看護学研究科設置準備室の和泉京子先生に伺いました。

## お体の具合はいかがですか？ とおたずねしました

7 割の方は「具合のよくないところはない」と回答されましたが、3 割の方は痛みやしびれ、だるさがあるなど「具合のよくないところがある」と回答されました。血圧測定をさせていただくと、自覚症状のない方でも収縮期血圧（高い方の血圧）が 180mmHg を超えている方（中には 200mmHg 超えも）が複数いました。

（正常値：収縮期血圧 130mmHg 未満、拡張期血圧 85mmHg 未満）

## 治療を中断している方もいました

高血圧や糖尿病など治療が必要な病気があるにもかかわらず「治療を中断している」と回答された方は 3 割にのぼりました。

## 「特に自覚症状もなく健康だから」が特定健診を受けない最も多い理由でした

健康であると感じている、ということはとてもよいことですが、生活習慣病は自覚症状なく進行するため、自覚症状がなくても健診でお体の具合を確認することはとても大切です。

## お話をお伺いすると、特定健診を受けない理由は、一人ひとり違ってました

しかし、よくお話を伺うと、「特定健診を受診しない理由」は一人ひとり違っており、「健康だから」といいながら、決して特定健診を受診しなくてよいと思っているのではなく、実は「ご家族の介護で受診する時間がとれない」「かかりつけ医がない」ためにこの病院で受診してよいかわからない、長年、健診受診や病院の受診をしていないために「健診結果が悪いのではないかとこわい」、病気が見つかって「薬を飲むことになるのに抵抗がある」、病気が見つかったら「治療にお金がかかる」といった理由をお持ちでした。

## 家庭訪問の後に特定健診を受診したことにより、生活習慣病が見つかった方がいました

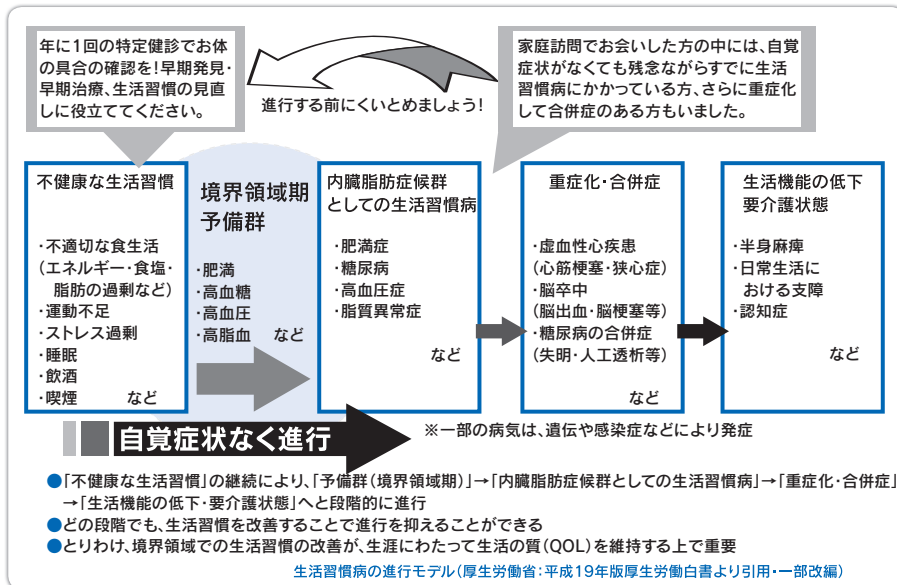
A さんは特定健診で「糖尿病が疑われるため病院への受診が必要」という結果でした。その後、病院で糖尿病と診断され治療につながりました。そのまま放置していると、図の「重症化・合併症」にあるように、糖尿病の合併症（失明・人工透析）になっていたかもしれません。

## 重症化・合併症で治療が必要になる方もいました

B さんは特定健診を受診する前に虚血性心疾患（心筋梗塞・狭心症）の症状が出て、病院を受診し、治療が開始されました。図の「重症化・合併症」のところまで進行してしまっていたのです。

## 一人でも多くの方に特定健診を受けていただくために

A さん、B さんとも、年に 1 回特定健診を受診していたならば、生活習慣病やその重症化・合併症をくいとおめることができたのではないのでしょうか。「ご家族の介護で受診する時間がとれない」「かかりつけ医がない」ためにこの病院で受診してよいかわからない、という方は一度、保険年金課へお問い合わせください。また、「健診結果が悪いのではないかとこわい」「薬を飲むことになるのに抵抗がある」「治療にお金がかかる」という方はぜひとも受診してください。たとえば、生活習慣病の予備群の状態では、生活習慣に気をつけることによって改善し、薬を飲まずにすむ、あるいは、重症化してから治療するより医療費も低くおさえることができます。一方、受診を先送りすることによって生活習慣病が進行すると治療にかかる医療費も高額になってしまいます。皆さまのお力を貸してください。ご家族、ご近所の皆さまで「特定健診、今年は受けた？」と声をかけあい、誘い合って受診するとどうでしょう。それぞれがお一人に声をかけることで、特定健診を受診する方が 2 倍になり進行した病気で苦しむ方を減らすことができます。



今年度も特定健診未受診の方へ家庭訪問をさせていただきます。お体の具合や健診制度のあり方などについて、ぜひ、お話を伺ってください。

問合せ：保険年金課保健事業担当  
☎ 958-1111 内線 1761